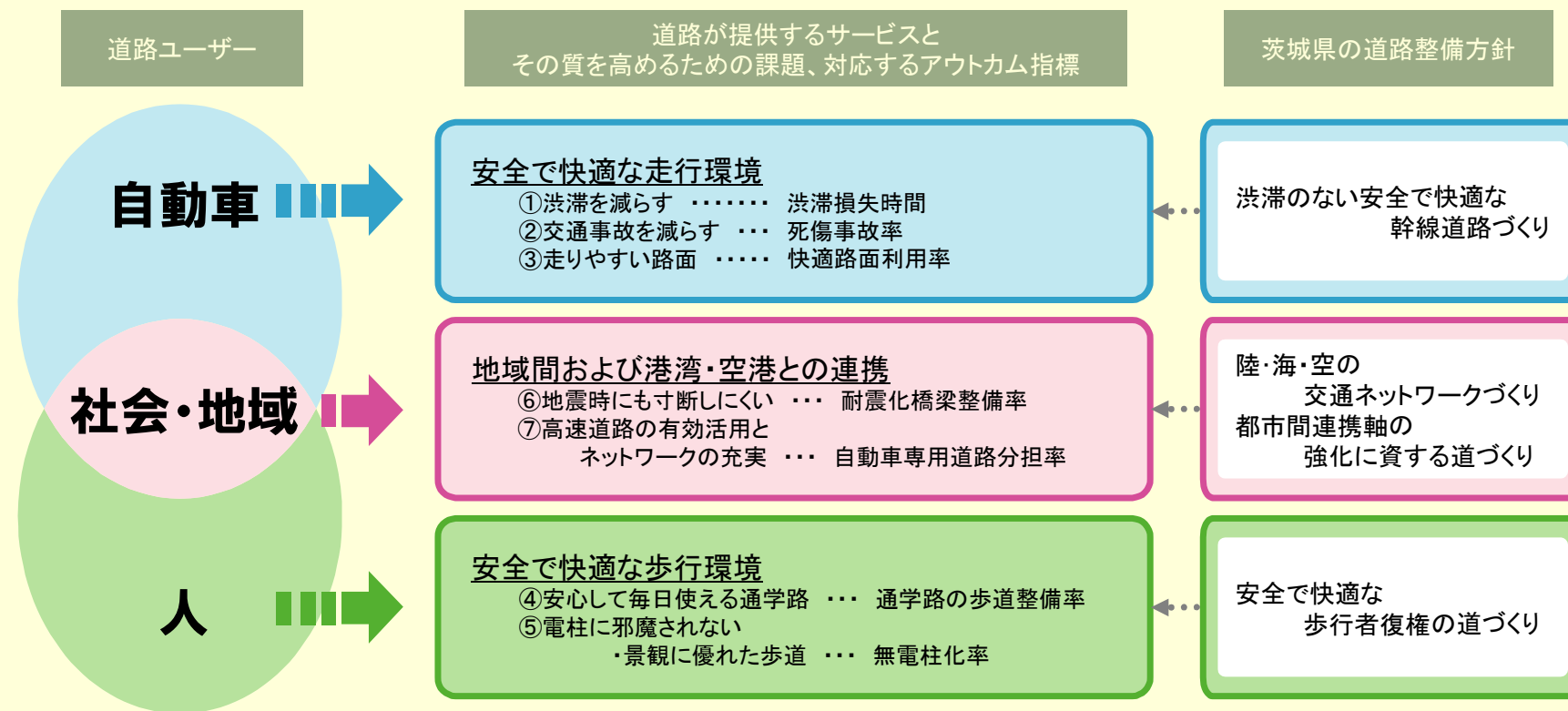


2

平成17年度 達成状況の報告 平成18年度 事業計画


●道路行政マネジメントの取り組みでは、道路を利用する人の立場を踏まえ、道路が提供するサービス(3種)と、その質を高める課題(7種)に分類[右図参照]し、これらを代表して表現するアウトカム指標[下参照]を設定しています。

●ここでは、設定しているアウトカム指標について、平成17年度に策定した成果目標がどのように達成されたかを示すとともに、平成18年度の成果目標を策定します。



①渋滞を減らす『渋滞損失時間』

■渋滞により浪費される無駄な時間を意味します。早朝・深夜など空いている時間帯と比較して、朝・夕・タピク時など混雑時間帯で余計にかかる所要時間を「浪費される無駄な時間」と考えます。



“渋滞”
=時間の浪費

■渋滞損失時間が減少すると。。。道路混雑が緩和され、朝夕の通勤時間や営業の外回りに要する時間が短縮することになります。数分の時間短縮でも、道路を利用する多くの人にその効果が及ぶので、地域全体で見ると大きな時間短縮になります。また、道路混雑が緩和し走行速度が向上することで、CO₂、NO_x等の排出量が削減し、環境負荷軽減につながります。

②交通事故を減らす『死傷事故率』

■車を運転している時に事故に遭う確率を意味します。


■死傷事故率が減少すると。。。事故の危険性が低下することになります。また、事故による渋滞の減少も期待できます。



③走りやすい路面『快適路面利用率』

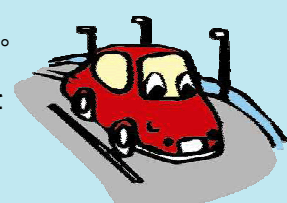
■わだちなどがなく快適で安全に走行可能な道路を利用している交通の割合を意味します。

道路路面は自動車の走行によって次第にわだちなどができてしまいます。つまり、快適路面利用率は適切に道路の維持管理を行わないと指標値が低下するという性格を持ちます。



適切な維持管理

■快適路面利用率が維持されると。。。維持管理がしっかり行われ、快適で安全な道路利用が提供されているということになります。



④安心して毎日使える通学路『通学路の歩道整備率』

■通学路に指定されている道路のうち歩道が整備されている区間の割合です。(国道、県道)

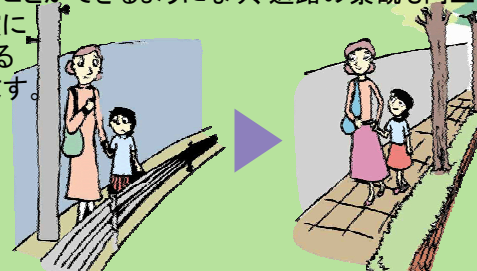
■通学路の歩道整備率が向上すると。。。より安全に通学することができる児童、生徒が増えることとなります。また、児童、生徒を送り出す保護者の方々も安心することができます。



⑤電柱に邪魔されない・景観に優れた歩道『無電柱化率』

■歩行者の比較的多い市街地において、道路の両側とも電柱がなく、歩道がすっきりとして歩きやすくなっている区間の割合です。

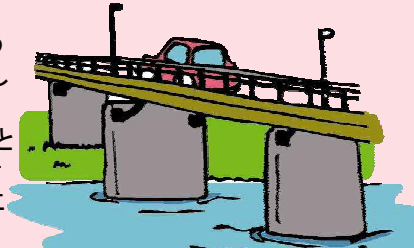
■無電柱化率が向上すると。。。歩道上に電柱の存在する区間が減少することで、歩道をより広く快適に使うことができるようになり、道路の景観も向上します。また、地震により電柱が倒れる心配がなくなります。



⑥地震時にも寸断しにくい『耐震化橋梁整備率』

■地震に強くする必要があると判断した橋梁のうち、耐震化補強を実施した橋梁の割合です。

耐震化が必要な橋梁とは、設計の考え方(設計基準)が古いなど地震に対する抵抗力が小さい橋梁です。



■耐震化橋梁整備率が向上すると。。。地震時にも寸断しにくい道路ネットワークが確保され、災害後の救助・支援活動を円滑に実施することが可能となります。

⑦高速道路の有効利用とネットワークの充実『自動車専用道路分担率』

■全体の自動車交通のうち、自動車専用道路を利用する交通の割合です。自動車専用道路とは、常磐自動車道や北関東自動車道、東水戸道路などを指します。

■自動車専用道路分担率が向上すると。。。長距離移動時に高速かつ快適なルートが選択可能になります。また、混雑している一般道から比較的空いている自動車専用道路に交通量が転換し、自動車専用道路がより有効に使われ、地域全体で見ると速度向上によるCO₂、NO_x等の排出量削減が見込まれます。



2

平成17年度 達成状況の報告

平成18年度 事業計画

■平成17年度の達成状況「概況」

- 7課題のうち6課題で、成果目標を達成しました。
 目標を達成した課題「渋滞を減らす」「交通事故を減らす」「走りやすい路面」「安心して毎日使える通学路」
 「電柱に邪魔されない・地震時に安全な歩道」「高速道路の有効活用とネットワークの充実」
- 目標を達成できなかった指標についても、値は向上しています。
 「地震時にも寸断しにくい:目標の5割達成」

■平成18年度 of 事業計画「概況」

- 各課題について、これまで同様アウトカム指標の成果目標を設定しました。
- 以下の課題については、これまでの取り組みに加え、新たな取り組みを進めます。
 「渋滞を減らす」:『渋滞見える化プラン』と『水戸都市圏渋滞対策』
 「交通事故を減らす」:『安全見える化プラン』
 「高速道路の有効活用とネットワークの充実」:『水戸北スマートIC社会実験』(全国初となる高速道路直結型)
- 「走りやすい路面」については、一般国道は快適に利用できる水準に概ね達したと考えられることから、
 限られた予算を踏まえ、路面補修の実施は必要最小限に抑制するという方針に変更します。
- その他の課題については、これまでの取り組みを引き続き推進します。

道路が提供するサービス	サービスの質を高める課題	アウトカム指標	単位	平成16年度	平成17年度			平成18年度	平成19年度
				実績値	目標値	実績値	達成状況	目標値	目標値
安全で快適な 走行環境	渋滞を減らす	①渋滞損失時間	万人時間／年	10,551	H16年度から97削減(10,454)	H16年度から337削減(10,214)	目標達成	H17年度から325削減(9,889)	H17年度から564削減(9,650)
	交通事故を減らす	②死傷事故率	件／億台キロ	73.4	H16年度から1.9削減(71.5)	H16年度から2.9削減(70.5)	目標達成	H17年度から1.4削減(69.1)	H14年度から1割削減(67.6)
	走りやすい路面	③快適路面利用率	%	82.9	H16年度の水準を概ね維持	H16年度から2.7向上(85.6)	目標達成	(方針変更に伴い設定しない)	(方針変更に伴い設定しない)
安全で快適な 歩行環境	安心して毎日使える通学路	④通学路の歩道整備率	%	67.3	H16年度から0.7向上(68.0)	H16年度から0.9向上(68.2)	目標達成	H17年度から0.8向上(69.0)	向上を目指す
	電柱に邪魔されない・地震時に安全な歩道	⑤無電柱化率	%	13.8	H16年度から0.9向上(14.7)	H16年度から0.9向上(14.7)	目標達成	H17年度から0.6向上(15.3)	向上を目指す
地域間および 港湾・空港との 連携	地震時にも寸断しにくい	⑥耐震化橋梁整備率	%	34.0	H16年度から8.9向上(42.9)	H16年度から4.2向上(38.2)	目標の5割達成	H17年度から8.0向上(46.2)	H17年度から14.2向上(52.4)
	高速道路の有効活用とネットワークの充実	⑦自動車専用道路分担率	%	7.9	向上を目指す(事業実施中)	H16年度から0.3向上(8.2)	目標達成	向上を目指す(事業実施中)	H17年度から1.0向上(9.2)